

# Principal Correspondence

## 当校の教育理念を優しく解釈してみました

当校の教育理念・校訓は、校長室の壁に、額に入れて飾っておくようなものではありません。それに向かって具体的に実践していくべきものです。理念は変わりませんがその解釈と手法は時代とともに変化するべきものと思います。

現在の校訓の(児童にもわかるような)解釈はこうです。

自立 人のお世話にならぬよう 人のお世話ができますように  
創造 知恵とアイデアで超えられない壁はない  
指導力(リーダーシップ) 目指す星を掲げよう チームワークで乗り越えよう。

学校は集団生活ですから、自分の思うようにならないことや、ルールを守った方がみんなが気持ちよく、効率的に暮らせること(つまり集中して学び、遊べること)があります。

先生から叱られる(叱るというのは教育の方法として褒めるとともに、重要な手法であり、たしなめると言うことで、怒ることではありません)ことで、子どもは規範意識や、しても良いこと・してはならないことを葛藤のうちに学んでいきます。ここで学ばないと社会に出てからでは遅い……。

一時期、「褒めて育てよう」ということが流行りましたが、褒められてばかりいると、かえって集団から受け入れられない自己中心的な子になってしまうと、今は解釈されています(もちろん適切な時に褒める＝認める教育は重要です)。

9月からクリスマスまで、リリーバール小学校では最も落ち着いた教育の充実期になります。もろもろの体験が満載。そこから多くを学んでまいりましょう。



# Principal Correspondence

## 小学生にチャットGPTは必要ありません

3年生からの小学校英語の必修化に続いて、コンピュータを動かすためのプログラミング教育必修化により、公立でも1年生からタブレットを使うようになりました。

欧米ではそうした教育が導入されつつあるというのですが、私は反対です。

タブレットは4年生からでも充分です。



具体的に、育脳的に言えば英語の発音や聞き取りは臨界期を越えた小学校3年生ではむしろ遅く、幼児から始めないと効果が薄いですし、音楽や運動神経もしかり。これに対して、プログラミング教育はいつでも取得できるのです。何も小学校で必修にまでしてやらなくとも、中高で充分取得できます。

臨界期までは貴重な時間です。何故貴重かということ、まず8～9歳までに器を伸ばす教育が大事ということ。ご存知のように8～9歳(臨界期)のIQと19歳のIQは変わりません(米国では実証されています)。



そのため、小学校でそんな時間があったら、国語をしっかり聞き、話し(英語も)、運動神経を養い、絵を描き、歌を歌い、自然体験をし、植物を育て、友達と遊んで、時には喧嘩することが大事ということです。

小学校時代に得るこの豊かな実体験こそが、中学校に行って座学中心の勉強(論理性や、情報教育)に生きてくるのです。脳科学的にも合理的です。

チャットGPTなどは13歳までは必要ありません。自分で考える思考力を育むことが大事です。

学力はIQではなく、HQ(人間性知能)の発達により、向上していきます。成績はHQ(粘り強さ、モチベーション、持続する力、ガマンできる力、自己学習の習慣など)で決まっていくからです。

しっかりと基礎基本を反復し、体験活動の多い学童教室を活用していきましょう。

